

【岩国市】
校務ＤＸ計画

1 「校務ＤＸチェックリスト自己点検結果」を踏まえた取組について

学校には、学習指導や生徒指導に加えて、保護者対応や関係機関との連絡調整、学校内での事務や会議等、多岐にわたる業務が存在している。今後は、教育活動の質の向上や教職員の負担軽減による働きやすい環境づくり等に向けて、校務ＤＸの取組を進めていくことが求められている。

こうした中、令和５年１１月に、教育委員会及び学校が教育ＤＸを推進する際に取り組むことが望ましい項目を整理した「GIGAスクール構想の下での校務ＤＸ化チェックリスト」自己点検が実施されたところであり、この結果等を踏まえつつ、具体的な取組を行う。

2 次世代の校務環境の構築について

本市では、令和４年度に校務情報基盤の更新を機に、それまでの境界防御型のネットワークを廃止し、アクセス制御型のセキュリティ対策を導入し、これに合わせて、教職員の校務用端末を持ち運び可能な機種へと更新するとともに、校内の無線アクセスポイントから校務用端末が接続できる環境整備を行った。また、校務情報をアクセスが適切に管理・運用できるクラウドシステムに保存する運用としたことで、端末のロケーションフリー化を実現した。

これにより、教職員がインターネットの利便性を享受しながら、校務情報に安全にアクセスできるようになった。様々な情報を教育データとして活用して児童生徒の支援に関すること、及び校務でのクラウドサービスの活用範囲をさらに拡大することで教職員の業務改善・働き方改革を一層推進する。

3 F A X ・押印等の制度・慣行の見直し

調査の結果、半数の学校が業務でF A Xを使用している。また、押印については大多数の学校で通知表、各種参加、各種調査、各種同意・承諾に関し、押印が必要な書類があると回答している。

なお、押印に関しては、後述する統合型校務支援システムに、指導要録及び出席簿の電子保存が可能となったことから、令和６年度以降に入学する児童生徒の指導要録及び、全児童生徒の出席簿の押印を廃止したところである。

今後も業務の効率性と正確性を高めるために必要な方法を精査しながら、F A Xや押印等について、制度・慣行の見直しを検討していく。

4 統合型校務支援システムの運用について

本市では、平成２３年度から統合型校務支援システムを導入し、校務のデジタル化に取り組んできた。令和６年度からは、山口県内の自治体で共同利用するパブリッククラウド方式の統合型校務支援システムに移行し、県内の自治体とともに、校務支援システムを標準として従来の校務を見直す「校務の標準化」に取り組んでいる。また、校務情報を一元的にシステムで処理することによって、名簿情報等の不必要な手入力作業を一掃することができる。今後もこうした取り組みを進めることで、教職員の負担軽減に努める。

5 採点システムの導入について

採点システムには、定期考査等の採点業務における正誤判定の効率化及び集計作業の自動化による採点業務全体の時間短縮や、採点結果の可視化機能によって得られた情報を、個に応じたきめ細かな学習指導に役立てるなど、時間的側面と質的側面から教職員の業務改善につながる効果が期待できる。本市では、令和6年度からクラウド型の採点システムを試験導入しており、教職員の業務改善効果が認められた場合、本格的な導入について検討することとしている。

6 教育情報セキュリティポリシーの整備

I C Tを活用した教育活動が日常的になり、教職員はもとより、児童生徒が情報システムにアクセスする機会が増えることから、情報セキュリティを確保するための方針、体制、対策等を包括的にまとめた情報セキュリティポリシーが必要となるが、その策定には至っていない。

先に構築した校務情報基盤の運用に沿うとともに、教職員、児童生徒が安全に情報システムにアクセスできるためにも、国の情報セキュリティ対策の動向や技術的な進展等も踏まえ、本市の実情に合った教育情報セキュリティポリシーの策定を行う。